(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2024-34127
(P2024-34127A)
(43)公開日　令和6年3月13日(2024.3.13)

(51)国際特許分類　　ＦＩ　　テーマコード（参考）

Ａ６１Ｋ	*8/29 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/29	４Ｃ０８３
Ａ６１Ｋ	*8/19 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/19	
Ａ６１Ｋ	*8/02 (2006.01)*	Ａ６１Ｋ	8/02	
Ａ６１Ｑ	*1/12 (2006.01)*	Ａ６１Ｑ	1/12	

審査請求　未請求　請求項の数　５　ＯＬ　（全11頁）

(21)出願番号　特願2022-138172(P2022-138172)
(22)出願日　令和4年8月31日(2022.8.31)
(71)出願人　000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町１丁目１４番１０号
(74)代理人　110000084
弁理士法人アルガ特許事務所
(72)発明者　川本 幸世
神奈川県小田原市寿町５丁目３番２８号
花王株式会社研究所内
Ｆターム（参考）　4C083　AB231 AB232 AB241 AB242
AB322 AB431 AB432 AC421
AC422 AC441 AC442 AD022
最終頁に続く

(54)【発明の名称】　粉末化粧料

(57)【要約】
【課題】シリコーン処理粉体の肌への密着性が向上し、肌に均一になめらかに伸び、肌なじみに優れ、白浮きのない、均一で綺麗な仕上がりが得られる粉末化粧料を提供する。
【解決手段】次の成分（Ａ）及び（Ｂ）：
（Ａ）シリコーン処理粉体、
（Ｂ）ＨＬＢ２～７の非イオン性界面活性剤
を含有する粉末化粧料。
【選択図】なし

【特許請求の範囲】
【請求項１】
次の成分（Ａ）及び（Ｂ）：
（Ａ）シリコーン処理粉体、
（Ｂ）ＨＬＢ２～７の非イオン性界面活性剤
を含有する粉末化粧料。
【請求項２】
成分（Ａ）の含有量が２０～９９質量％であり、成分（Ｂ）の含有量が０．０１～３質量％である、請求項１記載の粉末化粧料。
【請求項３】
全粉体に対する成分（Ａ）の質量割合（（Ａ）／全粉体）が、０．３～１である、請求項１又は２記載の粉末化粧料。
【請求項４】
成分（Ａ）が、少なくとも板状粉体を含む、請求項１～３のいずれか１項記載の粉末化粧料。
【請求項５】
成分（Ｂ）が、ソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステルから選ばれる１種又は２種以上を含む、請求項１～４のいずれか１項記載の粉末化粧料。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、粉末化粧料に関する。
【背景技術】
【０００２】
ルースパウダー等の粉末化粧料は、滑らかな使用感であり、均一で自然な仕上がりを得るために使用されている。
特許文献１には、特定の平均摩擦係数のタルクを含有する粉末化粧料が、化粧崩れを起こした肌上に均一に塗布することができ、化粧直し効果に優れることが記載されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【特許文献１】特開２０１２－１９３１２８号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
シリコーン処理粉体を含有する粉末化粧料は、肌上に均一に塗布することができ、化粧持続性に優れるものの、肌への密着性が悪く、ファンデーションを重ね付けした際の仕上がりにおいても課題があることを見出した。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本発明者は、粉末化粧料において、シリコーン処理粉体と、特定の非イオン性界面活性剤を組合わせて用いることにより、シリコーン処理粉体の肌への密着性が向上し、肌に均一になめらかに伸び、肌なじみに優れ、白浮きのない、均一で綺麗な仕上がりが得られることを見出した。
【０００６】
本発明は、次の成分（Ａ）及び（Ｂ）：
（Ａ）シリコーン処理粉体、
（Ｂ）ＨＬＢ２～７の非イオン性界面活性剤
を含有する粉末化粧料に関する。
【発明の効果】

【０００７】
本発明の粉末化粧料は、肌に均一になめらかに伸び、肌への密着性に優れるので、肌なじみが良く、白浮きのない、均一で綺麗な仕上がりを実現することができる。また、本発明の粉末化粧料の上にパウダーファンデーションを重ね付けした際も、密着性に優れ、カバー力が良好で、白浮きのない仕上がりが得られる。
【発明を実施するための形態】
【０００８】
成分（Ａ）は、シリコーン処理粉体である。
粉体としては、通常の化粧料に用いられるものであれば制限されず、体質顔料、着色顔料、光輝性顔料等を用いることができる。
体質顔料としては、例えば、ケイ酸、無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、タルク、セリサイト、窒化ホウ素、マイカ、合成マイカ、ガラスフレーク、合成金雲母、カオリン、クレー、ベントナイト、オキシ塩化ビスマス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化アルミニウム、硫酸カルシウム、硫酸バリウム、硫酸マグネシウム、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、珪酸アルミニウム、珪酸マグネシウム、シリカ、アルミナ等の無機顔料及びこれらの複合顔料などが挙げられる。複合顔料の具体例としては、酸化チタン被覆雲母、酸化亜鉛被覆雲母、酸化チタン・酸化亜鉛被覆雲母、酸化鉄被覆雲母、酸化鉄被覆雲母チタン、硫酸バリウム・酸化チタン被覆マイカ、酸化鉄被覆合成金雲母、酸化クロム被覆雲母チタン、酸化チタン被覆ガラス末、酸化鉄被覆ガラス末、酸化チタン内包ガラス末、酸化鉄内包ガラス末等が挙げられる。
【０００９】
着色顔料としては、例えば、酸化チタン、酸化亜鉛、黄酸化鉄、ベンガラ、黒酸化鉄、紺青、群青、酸化クロム、水酸化クロム等の金属酸化物；マンガンバイオレット、チタン酸コバルト等の金属錯体；カーボンブラック等の無機顔料；赤色３号、赤色１０４号、赤色１０６号、赤色２０１号、赤色２０２号、赤色２０４号、赤色２０５号、赤色２２０号、赤色２２６号、赤色２２７号、赤色２２８号、赤色２３０号、赤色４０１号、赤色４０５号、赤色５０５号、橙色２０３号、橙色２０４号、橙色２０５号、黄色４号、黄色５号、黄色４０１号、青色１号、青色４０４号等の合成有機顔料；β－カロチン、カラメル、パプリカ色素等の天然有機色素などが挙げられる。
【００１０】
光輝性顔料としては、雲母、合成金雲母、ガラス、シリカ、アルミナ等の板状粉体等の表面を、酸化チタン、酸化鉄、酸化ケイ素、紺青、酸化クロム、酸化スズ、水酸化クロム、金、銀、カルミン、有機顔料等の着色剤で被覆したものなど、及びポリエチレンテレフタレート・ポリメチルメタクリレート積層末、ポリエチレンテレフタレート・アルミ蒸着末、ポリエチレンテレフタレート・金蒸着積層末などの、フィルム原反を任意形状に断裁したものなどを用いることができる。
【００１１】
成分（Ａ）は、このような粉体をシリコーン処理したものである。例えば、ジメチコン、メチルハイドロジェンポリシロキサン、環状シリコーン、片末端又は両末端トリアルコキシ基変性オルガノポリシロキサン、架橋型シリコーン、シリコーン樹脂、フッ素変性シリコーン樹脂、アクリル変性シリコーン等のシリコーン系化合物を用い、通常の方法により、表面処理されたものであり、少なくともシリコーン処理された粉体であれば良く、シリコーン系化合物以外の化合物が併せて表面処理されていても良い。
シリコーン処理された粉体は、シリコーン系化合物と、疎水性の非シリコーン化合物を併用して処理されていても良い。疎水性の非シリコーン化合物処理としては、例えば、アルキル処理、アルキルシラン処理、金属石鹸処理、水溶性高分子処理、アミノ酸処理、アシル化アミノ酸処理、レシチン処理、有機チタネート処理、ポリオール処理、アクリル樹脂処理、メタクリ樹脂処理、ウレタン樹脂処理等の表面処理が挙げられ、１種又は２種以上を併用することができる。なお、シリコーン処理粉体は、疎水性の非シリコーン化合物処理されていない粉体が好ましく、シリコーン系化合物のみで処理されているシリコーン

処理粉体が好ましい。
シリコーン処理としては、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、白浮きを抑制し、均一で綺麗な仕上がりを実現する観点から、ジメチコン処理が好ましい。
【００１２】
また、成分（Ａ）としては、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、白浮きを抑制し、均一で綺麗な仕上がりを実現する観点から、板状粉体を含むのが好ましい。
板状粉体としては、例えば、窒化ホウ素、ケイ酸、無水ケイ酸、ケイ酸マグネシウム、セリサイト、タルク、マイカ、カオリン、クレー、ベントナイト、合成金雲母、雲母チタン、酸化チタン被覆ホウケイ酸、オキシ塩化ビスマス、酸化ジルコニウム、酸化マグネシウム、酸化アルミニウム、硫酸カルシウム、硫酸バリウム、硫酸マグネシウム、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム等の無機顔料及びこれらの複合顔料などが挙げられる。複合顔料の具体例としては、酸化チタン被覆雲母、酸化鉄被覆雲母、酸化鉄被覆雲母チタン、硫酸バリウム被覆雲母チタン、酸化鉄被覆合成金雲母、酸化クロム被覆雲母チタン、酸化チタン被覆ガラス末、酸化鉄被覆ガラス末、酸化チタン内包ガラス末、酸化鉄内包ガラス末等が挙げられる。
板状粉体としては、タルク、マイカ、雲母チタン、硫酸バリウム・酸化チタン被覆マイカから選ばれる１種又は２種以上を含むのが好ましく、少なくともタルク、マイカ、雲母チタンを含むのがより好ましい。
【００１３】
本発明において、成分（Ａ）のシリコーン処理粉体は、大きさ、形状等は制限されないが、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、白浮きを抑制し、均一で綺麗な仕上がりを実現する観点から、体積平均粒子径が０．０１～４０μｍであるのが好ましく、０．１～３０μｍがより好ましい。
本発明において、平均粒子径は、エタノールを分散媒として、レーザー回折散乱式粒度分布測定器（セイシン企業社製、ＬＭＳ－３５０）で測定された値である。なお、体積平均粒子径は、体積基準の平均粒子径であり、５０％メジアン径とする。
【００１４】
成分（Ａ）のシリコーン処理粉体は、１種又は２種以上を用いることができ、含有量は、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、白浮きを抑制し、均一で綺麗な仕上がりを実現し、パウダーファンデーションを重ね付けした際も、カバー力が良好で、白浮きを抑制する観点から、全組成中に２０質量％以上であるのが好ましく、３０質量％以上がより好ましく、３５質量％以上がさらに好ましく、９９質量％以下であるのが好ましく、９０質量％以下がより好ましく、８０質量％以下がさらに好ましい。また、成分（Ａ）の含有量は、全組成中に２０～９９質量％であるのが好ましく、３０～９０質量％がより好ましく、３５～８０質量％がさらに好ましい。
【００１５】
本発明の粉末化粧料においては、成分（Ａ）以外の粉体、例えば、成分（Ａ）に例示した粉体のシリコーン処理されていないものや、シリコーン処理以外の疎水化処理した粉体などを含有することができる。これらの粉体も、１種又は２種以上を組合わせて用いることができる。
本発明において、成分（Ａ）を含む全粉体の含有量は、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、パウダーファンデーションを重ね付けした際も、カバー力が良好になる観点から、全組成中に３０質量％以上であるのが好ましく、４５質量％以上がより好ましく、６０質量％以上がさらに好ましく、９９質量％以下であるのが好ましく、９８質量％以下がより好ましい。また、成分（Ａ）を含む全粉体の含有量は、全組成中に３０～９９質量％であるのが好ましく、４５～９９質量％がより好ましく、６０～９８質量％がさらに好ましい。
【００１６】
本発明において、全粉体に対する成分（Ａ）の質量割合（（Ａ）／全粉体）は、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、白浮きを抑制し、均一で綺麗な仕上がりを実現し、パウ

ダーファンデーションを重ね付けした際も、カバー力が良好で、白浮きを抑制する観点から、０．３以上であるのが好ましく、０．３５以上がより好ましく、０．４以上がさらに好ましく、１以下が好ましく、０．９以下がより好ましく、０．８以下がさらに好ましい。また、全粉体に対する成分（Ａ）の質量割合（（Ａ）／全粉体）は、０．３～１であるのが好ましく、０．３５～０．９がより好ましく、０．４～０．８がさらに好ましい。

【００１７】

本発明で用いる成分（Ｂ）は、ＨＬＢ２～７の非イオン性界面活性剤である。

成分（Ｂ）のＨＬＢは、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、白浮きを抑制し、均一で綺麗な仕上がりを実現し、パウダーファンデーションを重ね付けした際も、カバー力が良好で、白浮きを抑制する観点から、２～６が好ましく、２～５がより好ましい。

本発明において、ＨＬＢ（親水性－親油性のバランス〈Hydrophilic－Lipophilic Balance〉）は、界面活性剤の全分子量に占める親水基部分の分子量を示すものであり、グリフィン（Griffin）の式により求められるものである。また、２種以上の非イオン性界面活性剤から構成される場合、混合界面活性剤のＨＬＢは、各非イオン性界面活性剤のＨＬＢ値をその配合比率に基づいて相加算平均したものであり、次のようにして求められる。

混合ＨＬＢ＝Σ（ＨＬＢｘ×Ｗｘ）／ΣＷｘ

ＨＬＢｘは、非イオン性界面活性剤ＸのＨＬＢ値を示す。

Ｗｘは、ＨＬＢｘの値を有する非イオン性界面活性剤Ｘの質量（ｇ）を示す。

【００１８】

非イオン性界面活性剤としては、通常の化粧料に用いられるもので、例えば、ソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、プロピレングリコール脂肪酸エステル、ポリエチレングリコール脂肪酸エステル、ショ糖脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンソルビトール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンプロピレングリコール脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンヒマシ油、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンフィトスタノールエーテル、ポリオキシエチレンフィトステロースエーテル、ポリオキシエチレンコレスタノールエーテル、ポリオキシエチレンコレステリルエーテル、アルキルグリセリルエーテル変性シリコーン、ポリエーテル変性シリコーン、ポリオキシアルキレン・アルキル共変性シリコーン、ポリオキシアルキレン・フルオロアルキル共変性シリコーン等が挙げられる。

【００１９】

成分（Ｂ）としては、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、白浮きを抑制し、均一で綺麗な仕上がりを実現し、パウダーファンデーションを重ね付けした際も、カバー力が良好で、白浮きを抑制する観点から、ソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステルから選ばれる１種又は２種以上を含むのが好ましく、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステルから選ばれる１種又は２種以上を含むのがより好ましく、ジイソステアリン酸ポリグリセリル、トリイソステアリン酸ポリグリセリル、イソステアリン酸ソルビタンから選ばれる１種以上を含むのがより好ましい。

【００２０】

成分（Ｂ）は、１種又は２種以上を組み合わせて用いることができ、含有量は、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、白浮きを抑制し、均一で綺麗な仕上がりを実現し、パウダーファンデーションを重ね付けした際も、カバー力が良好で、白浮きを抑制する観点から、全組成中に０．０１質量％以上であるのが好ましく、０．０２質量％以上がより好ましく、０．０５質量％以上がさらに好ましく、３質量％以下が好ましく、２質量％以下がより好ましく、１質量％以下がさらに好ましい。また、成分（Ｂ）の含有量は、全組成中に０．０１～３質量％であるのが好ましく、０．０２～２質量％がより好ましく、０．０５～１質量％がさらに好ましい。

【００２１】

本発明の粉末化粧料は、さらに、（Ｃ）２５℃で液状の油剤を含有することができる。液状とは、流動性を有するもので、ペースト状も含まれる。

成分（Ｃ）の油剤としては、通常の化粧料に用いられるものであればいずれでも良く、例えば、炭化水素油、エステル油、エーテル油、シリコーン油、高級アルコール等が挙げられる。

【００２２】

より具体的には、炭化水素油としては、例えば、スクワラン、流動パラフィン、流動イソパラフィン、ポリブテン、水添ポリイソブテン、水添ポリデセン、ワセリン等の直鎖又は分岐鎖の炭化水素油が挙げられる。

【００２３】

エステル油としては、モノエステル油、ジエステル油、トリエステル油及びテトラエステル油が挙げられる。

モノエステル油としては、炭素数２～２４の脂肪族又は芳香族のモノカルボン酸又はジカルボン酸のモノエステルが挙げられ、具体例としては、２－エチルヘキサン酸セチル、オクタン酸セチル、イソノナン酸イソノニル、イソノナン酸イソトリデシル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ミリスチン酸ミリスチル、ミリスチン酸２－ヘキシルデシル、パルミチン酸イソプロピル、パルミチン酸オクチル、パルミチン酸２－ヘキシルデシルステアリン酸ブチル、ステアリン酸イソセチル、イソステアリン酸イソセチル、オレイン酸デシル、イソデシルベンゾエート、メトキシケイヒ酸オクチル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、酢酸ラノリン、コハク酸２－エチルヘキシル、アジピン酸２－ヘキシルデシル、安息香酸アルキル（Ｃ１２～Ｃ１５）等が挙げられる。

【００２４】

ジエステル油としては、炭素数３～１８のジカルボン酸のジエステル、多価アルコールのジ脂肪酸エステル等が挙げられ、具体例としては、ジカプリル酸プロピレングリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、ジステアリン酸グリコール、ジイソステアリン酸プロピレングリコール、ジイソステアリン酸グリセリル、モノイソステアリン酸モノミリスチン酸グリセリル、ジ２－ヘプチルウンデカン酸グリセリン、コハク酸ジ２－エチルヘキシル、セバシン酸ジイソプロピル、リンゴ酸ジイソステアリル、ジ２－エチルヘキサン酸エチレングリコール、アジピン酸ジイソブチル、アジピン酸ジ－２－ヘプチルウンデシル、セバシン酸ジ－２－エチルヘキシル等が挙げられる。

【００２５】

トリエステル油としては、３価以上の多価アルコールのトリ脂肪酸エステルが挙げられ、具体的には、トリミリスチン酸グリセリン、トリイソパルミチン酸グリセリン、トリ２－ヘプチルウンデカン酸グリセリン、トリエチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、トリオクタン酸トリメチロールプロパン、トリ（カプリル・カプリン酸）グリセリン、トリオレイン酸グリセリン、トリ２－エチルヘキサン酸グリセリン、トリイソステアリン酸グリセリン、オリーブ油、ホホバ油等が挙げられる。

【００２６】

テトラエステル油としては、４価以上の多価アルコールのテトラ脂肪酸エステルが挙げられ、具体的には、テトラ（ベヘン酸／安息香酸／エチルヘキサン酸）ペンタエリスリット、テトラエチルヘキサン酸ペンタエリスリット、テトラオクタン酸ペンタエリスリット、テトラ２－エチルヘキサン酸ペンタエリスリットが挙げられる。

【００２７】

エーテル油としては、ジアルキルエーテルが挙げられ、具体的には、ジヘキシルエーテル、ジカプリリルエーテル、セチル－１，３－ジメチルブチルエーテル等が挙げられる。

【００２８】

シリコーン油としては、架橋型メチルポリシロキサン、網状型メチルポリシロキサン、ジメチルポリシロキサン、メチルトリメチコン、ジメチルシクロポリシロキサン、ジフェニルシロキシフェニルトリメチコン等のメチルフェニルポリシロキサン、高級アルコール

変性オルガノポリシロキサン等が挙げられる。

揮発性シリコーン油としては、例えば、ジメチルポリシロキサン（１ｃｓ）、ジメチルポリシロキサン（１．５ｃｓ）、ジメチルポリシロキサン（２ｃｓ）等の直鎖状ジメチルポリシロキサン；メチルトリメチコン、トリス（トリメチルシリル）メチルシラン、テトラキス（トリメチルシリル）シラン等の分岐状シロキサン；オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、ドデカメチルシクロヘキサシロキサン等の環状ジメチルシロキサンなどが挙げられる。

【００２９】

高級アルコールとしては、炭素数１０～２４の直鎖又は分岐鎖のアルキル又はアルケニル基を有するものが挙げられ、例えば、ラウリルアルコール、ミリスチルアルコール、イソセチルアルコール、イソステアリルアルコール、２－オクチルドデカノール、オレイルアルコール等が挙げられる。

【００３０】

成分（Ｃ）の油剤としては、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、パウダーファンデーションを重ね付けした際に均一に塗布でき、カバー力が良好で、白浮きを抑制する観点から、不揮発性油を含むのが好ましい。不揮発性とは、油剤１ｇを直径４８ｍｍのガラスシャーレに広げ、２５℃、常圧で２４時間放置後の質量減少率が１％以下のものをいう。

【００３１】

成分（Ｃ）は、１種又は２種以上を組合わせて用いることができ、含有量は、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、パウダーファンデーションを重ね付けした際も均一に塗布でき、カバー力が良好で、白浮きを抑制する観点から、全組成中に０．１質量％以上であるのが好ましく、０．５質量％以上がより好ましく、１質量％以上がさらに好ましく、８質量％以下が好ましく、６質量％以下がより好ましく、５質量％以下がさらに好ましい。また、成分（Ｃ）の含有量は、全組成中に０．１～８質量％であるのが好ましく、０．５～５質量％がより好ましく、１～５質量％がさらに好ましい。

【００３２】

本発明において、成分（Ｃ）に対する成分（Ｂ）の質量割合（Ｂ）／（Ｃ）は、肌になめらかに伸び、肌なじみが良く、白浮きを抑制し、均一で綺麗な仕上がりを実現し、パウダーファンデーションを重ね付けした際も、カバー力が良好で、白浮きを抑制する観点から、０．０１以上であるのが好ましく、０．０２以上がより好ましく、０．４以下が好ましく、０．３以下がより好ましく、０．２以下がさらに好ましい。また、成分（Ｃ）に対する成分（Ｂ）の質量割合（Ｂ）／（Ｃ）は、０．０１～０．４であるのが好ましく、０．０１～０．３がより好ましく、０．０２～０．２がさらに好ましい。

【００３３】

本発明の粉末化粧料は、前記成分以外に、通常の化粧料に用いられる成分、例えば、前記以外の油性成分、前記以外の界面活性剤、増粘剤、防腐剤、香料、紫外線吸収剤、保湿剤、塩類、溶媒、酸化防止剤、キレート剤、中和剤、ｐＨ調整剤、血行促進剤、冷感剤、制汗剤、殺菌剤、皮膚賦活剤等を含有することができる。

【００３４】

本発明の粉末化粧料は、通常の方法に従って製造することができる。

例えば、成分（Ａ）を含むすべての粉体成分を混合・粉砕した後、成分（Ｂ）を含むすべての油成分を加えて混合し、得られた混合物をさらに粉砕機で粉砕することにより、粉末状の化粧料を製造することができる。

【００３５】

本発明の粉末化粧料は、形態が粉末状である。具体的には、パウダーファンデーション、フェイスパウダー、白粉、ほほ紅、アイシャドウ等のメイクアップ化粧料；ボディパウダー、ベビーパウダー等のボディパウダーの形態が挙げられ、なかでも、フェイスパウダー、白粉が好ましく、粉末状のフェイスパウダー（ルースパウダー）として好適である。

【実施例】

【００３６】

実施例１～１３及び比較例１～２
表１に示す組成の粉末化粧料（ルースパウダー）を製造し、伸ばした際の滑らかなのび、肌なじみの良さ、白浮きのなさ、均一な仕上がり、重ね付けした際のカバー力、重ね付けした際の白浮きのなさを評価した。結果を表１に併せて示す。
【００３７】
（製造方法）
成分（Ａ）を含むすべての粉体成分を混合・粉砕した後、成分（Ｂ）を含むすべての油成分を加えて混合し、得られた混合物をさらに粉砕機で粉砕し、容器に充填して、粉末化粧料（ルースパウダー）を得た。
【００３８】
（評価方法）
（１）伸ばした際の滑らかなのび：
専門パネラー６名により、各粉末化粧料（ルースパウダー）を肌に伸ばした際の滑らかなのび感触を、以下の基準で官能評価した。結果は、６名の合計点で示した。
５；非常に滑らかなのびがある。
４；滑らかなのびがある。
３；やや滑らかなのびがある。
２；あまり滑らかにのびない。
１；滑らかにのびない。
【００３９】
（２）肌なじみの良さ：
専門パネラー６名により、各粉末化粧料（ルースパウダー）を肌に伸ばした際の肌なじみを、以下の基準で官能評価した。結果は、６名の合計点で示した。
５；肌にしっかりなじむ。
４；肌になじむ。
３；やや肌になじむ。
２；あまり肌になじまない。
１；肌になじまない。
【００４０】
（３）白浮きのなさ：
専門パネラー６名により、各粉末化粧料（ルースパウダー）を肌に伸ばした際の白浮きのなさを、以下の基準で官能評価した。結果は、６名の合計点で示した。
５；まったく白浮きがない。
４；白浮きがない。
３；あまり白浮きがない。
２；やや白浮きがある。
１；白浮きがある。
【００４１】
（４）均一な仕上がり：
専門パネラー６名により、各粉末化粧料（ルースパウダー）を肌に伸ばした際の仕上がりの均一さを、以下の基準で官能評価した。結果は、６名の合計点で示した。
５；かなり均一である。
４；均一である
３；やや均一である。
２；あまり均一でない。
１；均一でない。
【００４２】
（５）重ね付けした際のカバー力：
専門パネラー６名により、各粉末化粧料（ルースパウダー）を塗布した後、パウダーファンデーションを重ね付けした際のカバー力を、以下の基準で官能評価した。結果は、６

名の合計点で示した。
５；カバー力が非常に高い。
４；カバー力が高い。
３；カバー力がやや高い。
２；カバー力があまり高くない。
１；カバー力が高くない。
【００４３】
（６）重ね付けした際の白浮きのなさ：
　専門パネラー６名により、各粉末化粧料（ルースパウダー）を塗布した後、パウダーファンデーションを重ね付けした際の白浮きのなさを、以下の基準で官能評価した。結果は、６名の合計点で示した。
５；まったく白浮きがない。
４；白浮きがない。
３；あまり白浮きがない。
２；やや白浮きがある。
１；白浮きがある。
【００４４】

【表１】

				体積平均粒子径（μm）	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	実施例5	実施例6	実施例7	実施例8	実施例9	実施例10	実施例11	実施例12	実施例13	比較例1	比較例2
粉体	（A）	ジメチコン処理タルク	浅田製粉社製、タルクＪＡ－１３Ｒ	5～8	41.6	41.7	41.3	41.6	41.6	56.6	71.6	41.6	41.6	41.6	41.6	41.6	42.95	41.8	41.6
		ジメチコン処理硫酸バリウム・酸化チタン被覆マイカ	メルク社製、Ronaflair Low Luster Pigment	3～10								0.5							
		ジメチコン処理雲母チタン	メルク社製、ティミロンスーパーシーンＭＰ－１００１	7～14	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	4.0	1.0	1.0
		ジメチコン処理雲母チタン	メルク社製、ロナフレアーバランスレッド	6～8.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.8	1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0
		ジメチコン処理雲母チタン	メルク社製、ロナフレアーバランスゴールド	6～8.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6
		ジメチコン処理赤酸化鉄	－														0.41		
		ジメチコン処理黄酸化鉄	－														1.28		
		ジメチコン処理黒酸化鉄	－														0.06		
		ジメチコン処理酸化チタン	石原産業社製、チタンＣＲ－５０	0.25													3		
		ジメチコン処理マイカ	ヤマグチマイカ社製、マイカＳＡ－３１０	26	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0		10.0	10.0
	その他	アミノ酸処理タルク	浅田製粉社製、タルクＪＡ－４６Ｒ	7～11	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	25.0	10.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0
		シリカ	富士シリシア化学社製、ＢＣシリカビーズ　Ｃ－３０	15	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2					2.2	2.2	2.2
		シリカ	ＡＧＣ社製、サンスフェア　ＮＰ－１００	10									2.2						
		コーンスターチ	日本食品化工社製、日食コーンスターチW	10										2.2					
		セルロース	大東化成工業社製、セルロビーズ　Ｄ－１０	10											2.2				
		炭酸カルシウム	堺化学社製、かるまる　ＳＣＳ－Ｍ５	5												2.2			
（B）		ジイソステアリン酸ポリグリセリル－２	日清オイリオグループ社製、コスモール　４２Ｖ　（HLB=４）		0.2	0.1	0.5			0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2		
		トリイソステアリン酸ポリグリセリル－２	日清オイリオグループ社製、コスモール　４３Ｖ　（HLB=３）					0.2											
		イソステアリン酸ソルビタン	クローダジャパン社製、スパン　１２０（HLB=４．７）						0.2										
その他		ポリソルベート２０	花王製、レオドール　ＴＷ－Ｌ１２０（HLB ＝１６．７）																0.2
（C）		水添ポリイソブテン	日油社製、パールリーム　ＥＸ		3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
その他		防腐剤			0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
合計					100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
（A）					44.2	44.3	43.9	44.2	44.2	59.2	74.2	44.2	44.2	44.2	44.2	44.2	54.2	44.4	44.2
（B）					0.2	0.1	0.5	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0
（C）					3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
全粉体					96.4	96.5	96.1	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.4	96.6	96.4
（A）／全粉体					0.46	0.46	0.46	0.46	0.46	0.61	0.77	0.46	0.46	0.46	0.46	0.46	0.56	0.46	0.46
（B）／（C）					0.07	0.03	0.17	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.00	0.00
評価		伸ばした際の滑らかなのび			30	29	27	25	26	26	23	27	26	22	22	23	27	21	18
		肌なじみの良さ			30	28	28	28	27	27	23	27	26	23	22	27	27	17	15
		白浮きのなさ			28	26	27	26	26	22	22	25	22	23	24	27	27	18	14
		均一な仕上がり			28	27	28	28	28	28	24	27	27	24	24	26	29	19	17
		重ね付けした際のカバー力			29	26	25	24	25	28	24	27	26	25	23	26	27	15	14
		重ね付けした際の白浮きのなさ			28	26	26	27	25	27	27	27	27	22	23	26	27	16	13

フロントページの続き

Ｆターム（参考）　AD242 AD262 BB04 BB25 BB26 CC12 DD17 EE05 EE06 EE07